



今年度第1回目の家庭教育学級開催

6月16日(木)の15:30から16:40に会議室において、平成28年度第1回家庭教育学級が、下記の内容で開催されました。

◆ 演題 小中学生を取り巻くスマホ・ネットの実態について
～ 具体的な問題事案を通して ～

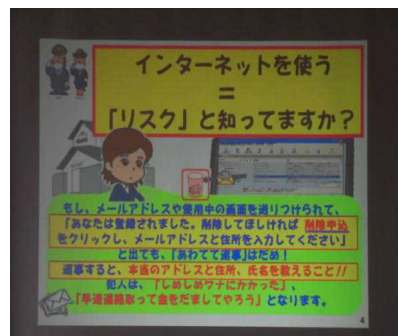
◆ 講師 桐生警察署 生活安全課 総括少年警察補導員 江口真氏



【挨拶する溝口教養部長】



【講演する江口氏】



【ネット利用のリスクとは】

2児(中学生、小学生)の母親でもあり警察職員でもある江口氏には、両方の立場から、子どもたちを取り巻くインターネットの実態について、桐生市内等で実際に起こった問題事案を織り交ぜながら話をいただきました。話の主なポイントを以下のとおりです。

- ネットに関する知識を習得し、ネットにまつわる事件や犯罪の報道にアンテナを高くしていないと、保護者(子ども)は子ども(自分)を守ることができない。
- ゲームそのものが目的ではなく、SNSをやることが目的でゲーム機を欲しが(ゲームをダウンロードしたがる)子どもがいる。オンラインゲーム機は友達とチャットもでき、危険がいっぱいの出会い系サイトにも繋がってしまう。
- 「無料です」「痩せます」が謳い文句のサイトに入って、個人情報盗まれてしまうことが多い。今は、いかにも危険そうな雰囲気のあるサイトというのは存在しない。
- フィルタリング(通信事業者が、子どもに見せたくないサイトを閲覧できなくするサービス)をかけただけでは駄目で、併せて、ペアレンタルコントロール(保護者が、子どもに悪影響を及ぼす可能性があるコンテンツやサービスに利用制限をかけるサービス)を活用していく必要がある。
- LINEのタイムラインで、<いいね!スタンプ>を押してくれなかったというだけの理由で、“ネットいじめ”が行われたという事案がある。
- 市内の6年生女子が、フリーのWi-FiスポットからiPodで、友達にせがまれた下着姿の写真(顔なし)を送ったところ、あっという間に個人情報とともに広がってしまった。被害に遭ったように感じられるのに、この女の子の扱いは、“児童ポルノ製造者”である。

- 投稿された写真1枚や短いつぶやきからでも、悪意があれば、様々なアプリケーションソフトを使ったり検索を繰り返したりして、個人情報（名前、住所、交友関係、行動内容、家庭事情など）を調べ上げることがはとも簡単である。
- ある高校生がネット上に投稿した内容を非難した人達が、1日でその生徒の個人情報（実名、写真、高校名など）を調べ上げてネット上に公開した。高校にはクレーム電話が殺到し、その生徒は決まっていた大学合格を取り消されてしまった。
- 大学や会社は、受験生や就職希望者に関する過去の書き込みや投稿写真などを必ずチェックする時代になっている。完全に消すことができない過去の投稿（こんなことを言ったりやったりしていた子なのか…）が原因で、不合格・不採用になる若者が増えてきている。筆記試験や面接だけが可否の対象になっているわけではない。
- 「無記名ならば誰だか分からない！」というのは嘘。プロバイダーには必ず記録が残っているので、警察が調べれば、誰が公開したものはすぐに分かってしまう。
- <おぜのかみさま>で、子どもたちをネット犯罪（被害、加害）から守る。

北地区青少年愛育運動協議会総会でも情報モラル講習会

6月14日(火)の10:30から北公民館で開催された上記総会でも、30分間の「情報モラルに関する講習会」が下記の内容で行われ、校長とPTA会長が参加しました。

- ◆ 演題 青少年を取り巻くケータイ・スマホ・ネットの実情について
- ◆ 講師 NPO法人 ぐんま子どもセーフネット活動委員会 インストラクター 吉田茂氏

講師の吉田氏からは、ネットを利用する際のキーワードとして、「**発信前 ちょっと 止まって 考えて**」という言葉が示され、<情報（書き込み、写真）を発信する前に覚えておきたい4つのこと>として、次の話がありました。

- ① 友達だけに情報を送信したとしても、それは日本中・世界中に公開されていると考えた方がよい。
- ② 投稿した書き込みや写真はどんどんコピーされ、どこかに残っているので、一生取り消すことはできないと考えた方がよい。
- ③ 本名を隠して投稿しても、その他の様々な情報から必ず本名を割り出されてしまうと考えた方がよい。
- ④ 過去のふざけた書き込みや写真は、就職試験など今後の人生に必ず影響を及ぼすと考えた方がよい。

最後に、電子メディア界の巨星である2人の起業家が、“インターネットが子どもに与える影響をどのように捉えているか”という話があり、次の言葉が紹介されました。



<アップル創業者 スティーブ・ジョブスの言葉>

子どもたちにはテクノロジーの使用を制限すべきだ。
うちの子どもには、まだiPadを与えていない。

<Twitter創業者 エヴァン・ウィリアムズの言葉>

親として、テクノロジー中毒から子どもを守る責任がある。

